

# アオノリ養殖漁場環境調査

天真 正勝・宮田 匠

吉野川河口域はアオノリ類養殖好漁場であり、特にスジアオノリは高級特産品として扱われている。また、スジアオノリ養殖は豊凶の変動が大きいことが知られており、養殖漁場の環境条件を明らかにすることで養殖技術の向上に役立てる。

## 方法

調査は図1に示した6点で行い、下流から上流へ遡上しながら実施した。水温・塩分観測はクロロテック(0.1m間隔、アレック電子(株):ACL-215-DK)で行った。調査日、調査時刻及び潮汐は表1のとおりである。調査時の水深は河床砂の流動等の影響で一定ではないが、河口域を縦断するように調査した。

## 結果及び考察

各調査時の観測日時と当該日の潮汐は表1に、各調査点の水温・塩分の鉛直分布は鮎喰川合流点のSt3を除く5点で擬似的な河口域の縦断図を図2～4に示した。

10月23日の調査時は表1にあるように小潮の満潮前であ

り、図2のように水温は18～22 台で各点とも水深1～3 mにかけて躍層がみられ、3 m以深では21.5 以上であった。塩分も水温と同じ水層で変化が見られ、特に表層部では3以下を示し、これは調査日前の降雨による出水によるものと考えられた。

11月20日の調査時は表1にあるように中潮のほぼ満潮時であり、図3のように15～18 台であり、上層部が低くなっている。特に、St2から下流では3 m以深は18 以上となっていた。また塩分は20～31台であり、水温同様St2付近まで中・下層には高くなっていた。

12月20日の調査時は表1にあるように先月同様ほぼ中潮の満潮時であり、水温は上流及び上層ほど低く、St4, 5付近では水深2 m付近が高くなっている。塩分もほぼ同様の結果であるが、このときの調査点での水深は下流が浅くなっており、調査点についての誤差があったこともあるが、当該水域では出水や河川流量により河床が変化し、その河床が高くなってきていることも考えられる。

以上のように、吉野川河口域では汽水域であるため水温・塩分変動が大きい、特に1～2 m層付近で変化が大きい。また、下流域での河床変化による環境変化も考慮する必要がある。

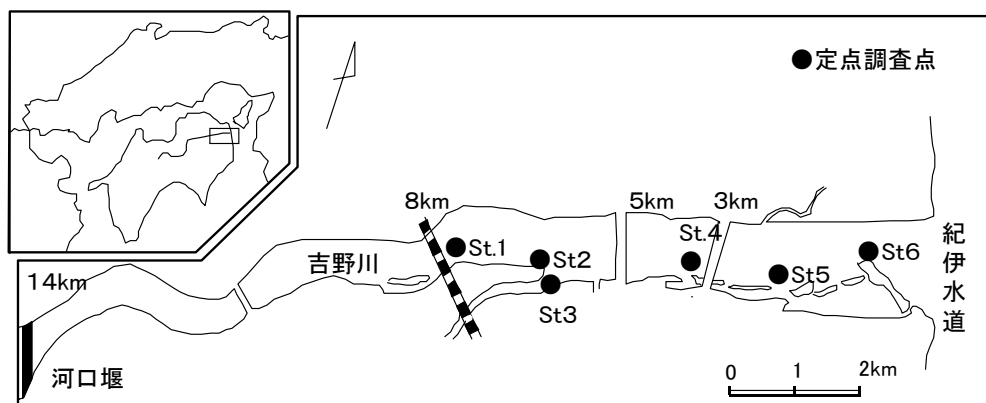


図1 調査位置

表1 調査実施日時及び潮汐

調査日	観測時刻	満潮				干潮				潮
		時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	
平成13年10月23日	9:38～10:23	11:31	137	20:41	143	3:54	52	15:43	123	小潮
11月20日	9:57～10:31	9:49	143	20:01	145	2:44	22	14:48	103	中潮
12月20日	9:46～10:21	10:03	134	20:34	129	3:03	18	15:20	87	中潮

(潮位:cm、財団法人 日本気象協会四国センター 気象暦(小松島港)より)

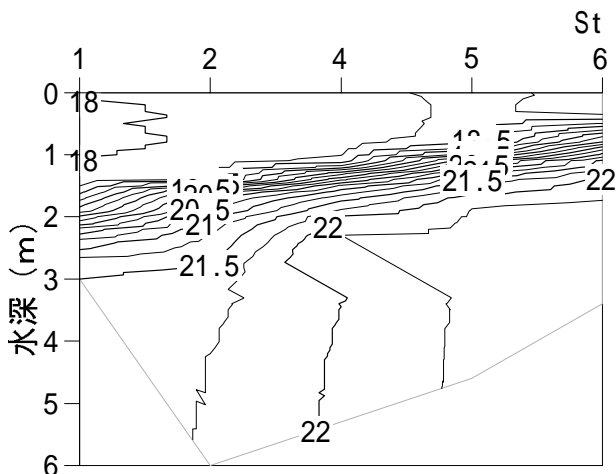


図3 平成13年10月23日の吉野川河口域における水温・塩分分布図  
(st3を除く,左:水温( ),右:塩分)

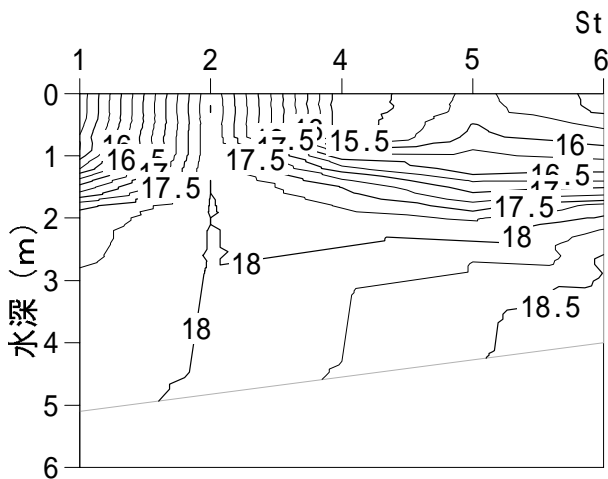
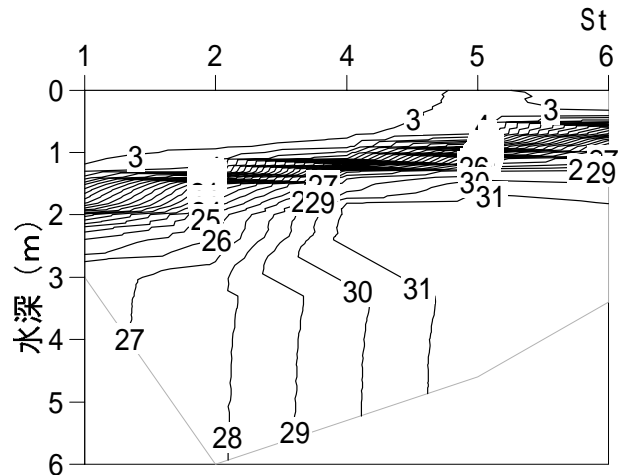


図4 平成13年11月20日の吉野川河口域における水温・塩分分布図  
(st3を除く,左:水温( ),右:塩分)

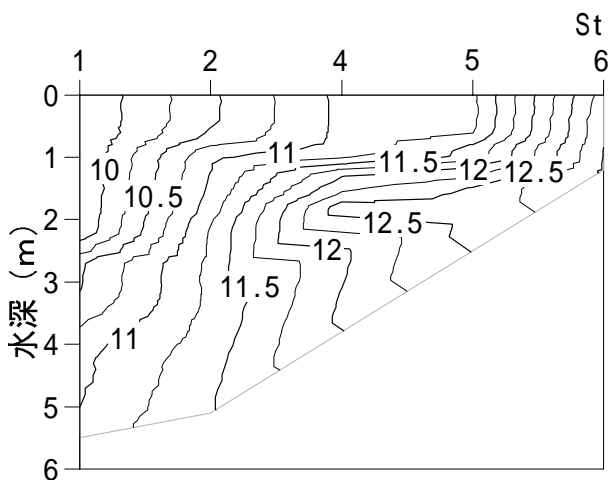
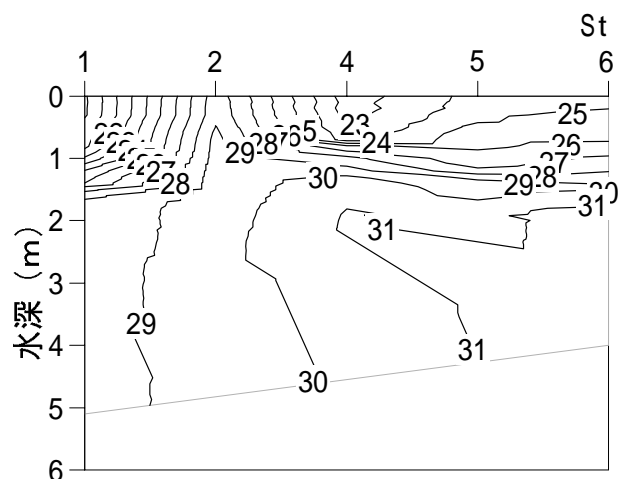


図5 平成13年12月20日の吉野川河口域における水温・塩分分布図  
(st3を除く,左:水温( ),右:塩分)

